

小 学 校 特別の教科 道徳

徳島県教育委員会

道徳教育の課題と教科化によって目指すもの

量的課題

・歴史的経緯に影響され、いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮がある。

・他教科等に比べて軽んじられ、他の教科等に振り返られているのではないか。

質的課題

・道徳教育の理念が十分に理解されておらず、効果的な指導方法も共有されていない。

・道徳教育に関する理解や道徳の時間の指導方法にばらつきが大きい。

・授業方法が読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがち

・学年が上がるにつれて、道徳の時間に関する児童生徒の受け止めがよくない状況にある。

年間35単位時間を
確実に確保する

量的確保

児童生徒一人一人が、
答えが一つではない道徳的
な課題を自分自身の問題
として捉え向き合う

「考え、議論する道徳」

質的確保

「特別の教科」化による変化

教科化の具体的なポイント

・道徳科に検定教科書を導入

・内容について、いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものに改善

・問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫

・数値評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を認め、励ます評価(記述式)

「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する」

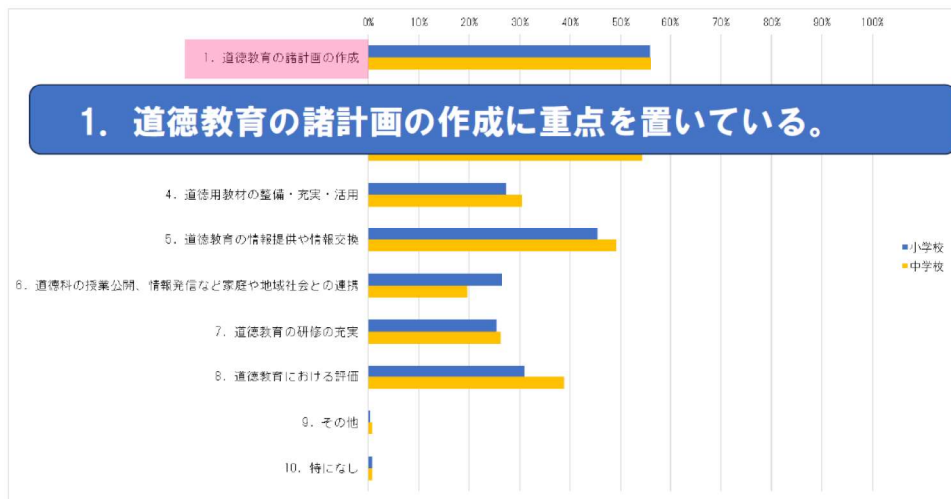
道徳教育への転換により児童生徒の道徳性を育む

道徳教育の全体計画について

諸計画の作成・活用(道徳教育実施状況調査)

調査結果 (小・中学校)

【設問10】道徳教育推進教師が**重点**を置いて取り組んでいること (複数回答可)



令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

諸計画の作成・活用(道徳教育実施状況調査)

調査結果 (小・中学校)

【設問1】道徳教育の全体計画作成に当たり**留意した点** (複数回答可)



多くの学校で校長の方針の下に、学校として育てようとする児童生徒の姿を明らかにするとともに、児童生徒・学校・地域の実態と課題、教師・保護者の願いを踏まえらるるよう留意して全体計画を作成している。

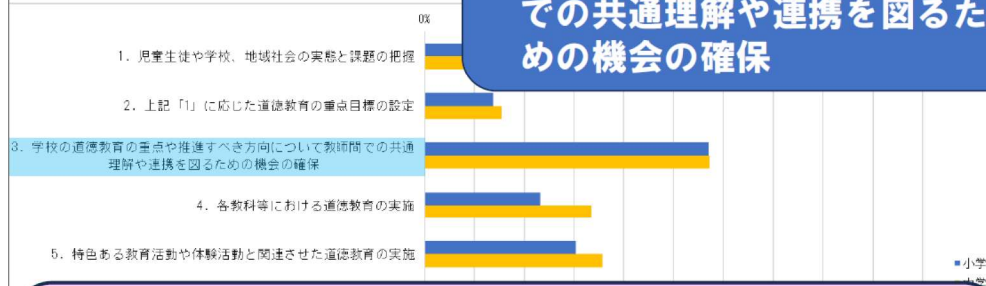
令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

諸計画の作成・活用(道徳教育実施状況調査)

調査結果 (小・中学校)

【設問3】道徳教育を推進する上での

3. 学校の道徳教育の重点や推進すべき方向について教師間での共通理解や連携を図るための機会の確保



年度当初に道徳教育に係る諸計画を配布、説明することはもちろんですが、年度の途中や学年会議等においても道徳教育の諸計画について確認したり、意見交換したりする機会を短時間でもよいのでこまめに設けることが大切になると考えられます。

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

報告書【概要版】

令和5年度「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」

調査研究テーマC

「令和5年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査（うち、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等）の結果を活用した専門的な分析」

2024年3月

世界が進むチカラになる

三菱UFJリサーチ&コンサルティング



令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の推進・充実

道徳

道徳教育の要となる 道徳科の授業の推進・充実

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

分析結果のまとめ

1. 小学校・中学校ともに、児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」の間には正の相関が見られる
 - ・「自己有用感等」のうち、特に質問13「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」や質問8「人が困っているときは、進んで助けている」は相対的に高い相関が見られる
 - ・ただし、「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況ごとの相関係数の違いは大きくなく、「主・対・深」「総合・学活・道徳」の質問項目間の類似性が高いことが影響している可能性がある
2. 小学校、中学校ともに、児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」に係る取り組みはSES・学力の高低に関わらず、いずれの層の「自己有用感等」にも一定程度有効な可能性がある。また、SESや学力による交絡は深刻なバイアスに繋がっていない
3. 令和4年度と令和5年度の比較では、児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況の変化に応じて「自己有用感等」も変化した可能性が考えられる

【解釈の留意点】

- なお、これらの分析結果は、児童生徒の「自己有用感等」の回答と児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況の回答との間の相関関係を多面的に検証した結果である
- いずれの分析においても、以下のような観測不可能な要因の影響を取り除くことはできていないという点には留意が必要である
 - ・ 児童生徒固有の志向（全体的に高めに回答する児童生徒と全体的に低めに回答する児童生徒がいる可能性）
 - ・ 教員の指導状況（児童生徒の「自己有用感等」と児童生徒の「主・対・深」「総合・学活・道徳」の取組状況の回答をどちらも高めるような指導を行う教員がいる可能性）

2 Mitsubishi UFJ Research and Consulting



令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

総則編 道徳教育



- ・道徳教育の目標
- ・道徳教育推進教師の役割
- ・道徳教育の全体計画
- ・各教科等における道徳教育
- ・豊かな体験活動の充実
- ・いじめの防止
- ・家庭や地域社会との連携 等

特別の教科 道徳編 道徳科の授業



- ・道徳科の目標と内容
- ・年間指導計画
- ・道徳科の指導
- ・教材の開発と活用
- ・道徳科の評価 等

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の推進・充実

カリキュラム・マネジメント

補充・深化・統合

「主体的・対話的で深い学び」「考え、議論する道徳」

道徳教育の要となる 道徳科の授業の推進・充実

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

道徳教育の推進・充実を図るために…

カリキュラム・マネジメント

学校が主体的に子供や地域の実態など
様々な事項を的確に把握して、
育てたい子供像を明確にして
目標を設定し、計画を立てて、
教職員が共通理解、共通実践できるようにする

校長の
リーダーシップ



学校の
組織力



令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

道徳教育の目標

道徳教育は、教育基本法及び
学校教育法に定められた教育の
根本精神に基づき、自己の生き方
を考え、主体的な判断のものに行
動し、自立した人間として他者と
共にによりよく生きるための基盤とな
る道徳性を養うことを目標とする。

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

道徳教育推進教師の役割

- ・道徳教育の指導計画の作成
- ・道徳教育の推進、充実
- ・道徳科の充実と指導体制
- ・道徳用教材の整備・充実・活用
- ・道徳教育の情報提供や情報交換
- ・家庭や地域社会との連携
- ・道徳教育の研修の充実
- ・道徳教育における評価

に
関
する
こ
と

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

目指す子供像の設定の例

あかるく

◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

なかよく

◆思いやりの気持ちをもって、みんなと仲良くできる子

たくましく

◆生命を大切にし、生命を輝かせて努力できる子

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

目指す子供像の設定の例

あかるく

明るく生きる

◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

なかよく

共に生きる

◆思いやりの気持ちをもって、みんなと仲良くできる子

たくましく

力強く生きる

◆夢や目標に向かって、粘り強く努力できる子

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

道徳教育の全体計画

道徳教育の全体計画は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画

道徳教育の全体計画の作成に当たっては、児童（生徒）、学校及び地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏まえた各教科、（外国語活動）、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の**内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法**を示すこと。
（学習指導要領 第1章総則 第6の1の後段）

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

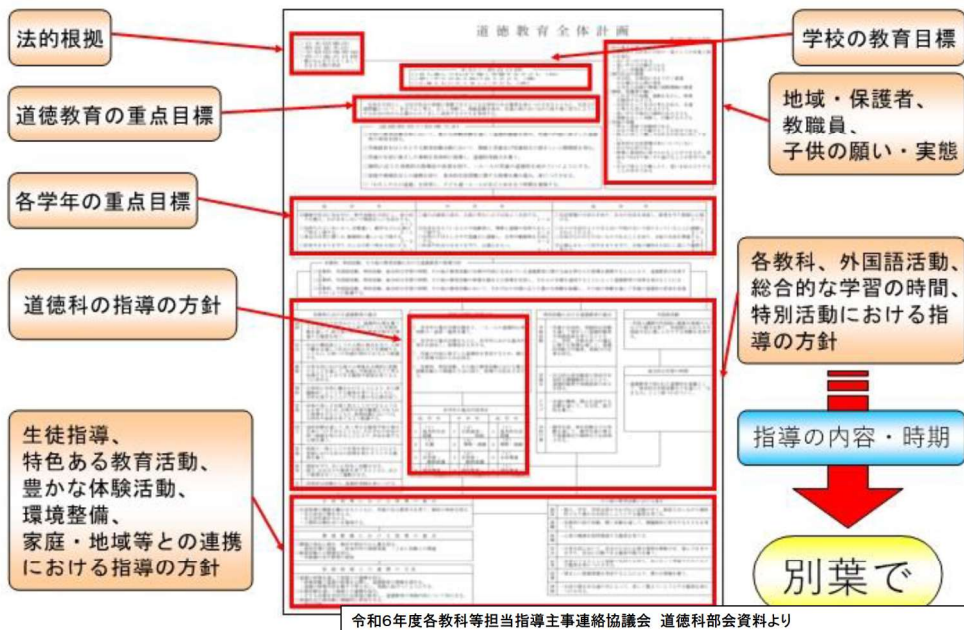
全体計画の意義

- 学校の特色や実態及び課題に即した道徳教育が展開できる。
- 学校における道徳教育の重点目標を明確にして推進することができる。
- 道徳教育の要としての道徳科の位置付けや役割が明確になる。
- 全教師による一貫性のある道徳教育が組織的に展開できる。
- 家庭や地域社会との連携を深め、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を可能にする。

【小学校学習指導要領解説 総則編：H29.7から一部抜粋】

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

全体計画（例）と内容



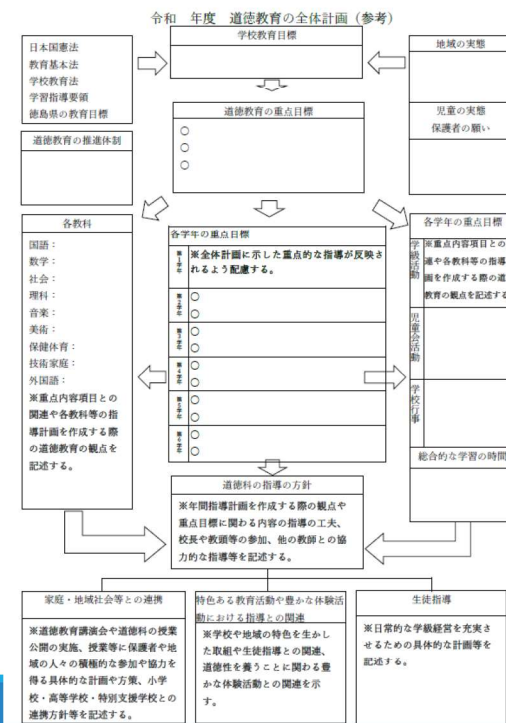
道徳教育全体計画の別葉

全体計画を一覧表にして示す場合は、必要な各事項について文章化したり具体化したりしたものを加えるなどの工夫が望まれる。

例えば、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを**別葉にして加える**などして、年間を通して具体的に活用しやすいものとするのが考えられる。

県立総合教育センター
ホームページに
様式を上げています。

<https://www.tokushima-ec.ed.jp/shien/kyokashido/shouyou/dotoku>



全体計画別葉作成の例

◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

重点内容項目（**B礼儀** **C規則の尊重**）

【第4学年の例】

内容項目	国語	算数	理科	学校行事	...
...			...		...
礼儀	お願いやお礼の手紙を書こう			入学式（4月） 卒業式（3月）	
...			...		...
規則の尊重	図書館へ行こう	折れ線グラフと数角の大きさ		運動会（5月） 校外学習（9月）	
...					...
生命の尊さ	一つの花		生き物のくらし	人権集会（6月） いじめ撲滅運動（10月）	...

<https://www.tokushimaec.ed.jp/shien/kyokashido/shouyou/dotoku>

[illegible]

年間指導計画は、道徳科の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、児童(生徒)の発達段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画である。

具体的には、道徳科において指導しようとする内容について、児童(生徒)の実態や多様な指導方法等を考慮して、学年段階に応じた主題を構成し、この主題を年間にわたって適切に位置付け、配列し、学習指導過程等を示すなど、授業を円滑に行うことができるようにするのである。

各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする。なお、作成に当たっては、第2に示す各学年段階の内容項目について、相当する各学年において全て取り上げることとする。その際、児童(生徒)や学校の実態に応じ、2学年間(3学年間)を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする。

内容

小

A 主として自分自身に関すること

[善悪の判断、自律、自由と責任][正直、誠実][節度、節制]
[個性の伸長][希望と勇気、努力と強い意志][真理の探究]

B 主として人との関わりに関すること

[親切、思いやり][感謝][礼儀][友情、信頼][相互理解、寛容]

C 主として集団や社会との関わりに関すること

[規則の尊重][公正、公平、社会正義][勤労、公共の精神]
[家族愛、家庭生活の充実][よりよい学校生活、集団生活の充実]
[伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度][国際理解、国際親善]

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

[生命の尊さ][自然愛護][感動、畏敬の念][よりよく生きる喜び]

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

内容項目について

〔第1学年〕

小

〔第2学年〕

〔第3学年及び第4学年〕

〔第5学年及び第6学年〕

中

〔中学校〕

19

15

19

16

20

15

22

13

22

13

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

年間指導計画の内容項目の配当時間数の例

◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

重点内容項目(B礼儀 小C規則の尊重 中C遵法精神、公德心)

視 点	内 容 項 目	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
A	真理の探究 真理の探究、創造					1	1	1	1	1	略
	親切、思いやり	3	3	3	2	2	2	2	2	2	
	感謝	2	1	1	1	1	2	2	2	2	
B	礼儀	3	3	2	2	2	3	3	2	3	
	友情、信頼	2	2	1	2	1	2	1	2	2	
	相互理解、寛容			1	2	2	2	2	1	1	
C	規則の尊重 遵法精神、公德心	3	3	3	3	3	3	3	3	3	略
	合 計	34	35	35	35	35	35	35	35	35	

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

年間指導計画の主題配列の工夫の例

◆笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子

重点内容項目(B礼儀 C規則の尊重)

学期	月	週	回	主題名	内容項目	教材名 (教科書以外の出典)	備考
1 学期	4 月	1	1	1日の始まり	B 礼儀	〇〇〇〇〇	
		2	2	安全な生活	A 節度、節制	〇〇〇〇〇	
		3	3	きまりは何のために	C 規則の尊重	〇〇〇〇〇	
	5 月	1	4	権利と義務	C 規則の尊重	〇〇〇〇〇 〈「郷土資料集」〇〇教委〉	
		2	5	自他の生命の尊重	D 生命の尊さ	〇〇〇〇〇 〈「私たちの道徳」文科省〉	
		3	6	まごころの形	B 礼儀	〇〇〇〇〇	
		4	7	長所と短所	A 個性の伸長	〇〇〇〇〇	

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

道徳科に生かす教材

教材については、教育基本法や学校教育法その他の法令に従い、次の観点に照らし適切と判断されるものであること。

ア 児童生徒の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること。

イ 人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童生徒が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること。

ウ 多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること。

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

道徳科に生かす教材

(学習指導要領解説抜粋)

ア 人間尊重の精神にかなうもの

人間尊重の精神は、道徳教育を推進する上での留意事項として一貫して述べられていることであり、生命の尊重、人格の尊重、基本的人権、思いやりの心などの根底を貫く国境や文化なども超えた普遍的な精神である。民主的な社会においては、人格の尊重は、自己の人格のみではなく、他の人々の人格をも尊重することであり、また、権利の尊重は、自他の権利の主張を認めるとともに、権利の尊重を自己に課すという意味で、互いに義務と責任を果たすことを求めるものである。しかもこれらは、相互に人間を尊重し信頼し合う思いやりの心などによって支えられていなければならない。(略)

※小学校学習指導要領解説抜粋。中学校学習指導要領解説にも同趣旨の記述あり。

【参考】

○小学校学習指導要領

〔規則の尊重〕

〔第5学年及び第6学年〕

法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。

○中学校学習指導要領

〔遵法精神、公德心〕

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

補助教材使用時の留意点

・教科用図書以外の教材を選定する場合には、児童生徒の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであり、多様な見方や考え方で深く考えることができるものなど、児童生徒の道徳性を養うという観点から考えて、**より大きな効果を期待できるという判断**を前提として検討することが重要である。

・補助教材を使用することにより、**指導する内容項目に漏れがないかを確認**する必要がある。

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

計画の弾力的な取扱いにおける配慮事項

ア 時期、時数の変更

児童生徒の実態などに即して、指導の時期、時数を変更することが考えられる。しかし、指導者の恣意による変更や、あらかじめ年間指導計画の一部を空白にしておくことは、指導計画の在り方から考えて、避けなければならない。

イ ねらいの変更

年間指導計画に予定されている主題のねらいを一部変更することが考えられる。ねらいの変更は、年間指導計画の全体構想の上に立ち、協議を経て行うことが大切である。

ウ 教材の変更

主題ごとに主に用いる教材は、ねらいを達成するために中心的な役割を担うものであり、**安易に変更することは避けなければならない**。変更する場合は、そのことによって一層効果が期待できるという判断を前提とし、少なくとも同一学年の他の教師や道徳教育推進教師と話し合った上で、**校長の了解を得て変更することが望ましい**。

エ 学習指導過程、指導方法の変更

学習指導過程や指導方法については、児童生徒や学級の実態などに応じて適切な方法を開発する姿勢が大切である。しかし、基本的な学習指導過程についての共通理解は大切なことであり、変更する場合は、それらの工夫や成果を校内研修会などで発表するなど意見の交換を積極的に行うことが望まれる。

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

家庭や地域社会との連携

	目指す子供像の重点	重点内容項目	家庭や地域社会との連携
1学期	笑顔であいさつができ、約束やきまりが守れる子	B礼儀 C規則の尊重	子供と地域のあいさつ運動 交通安全指導 等
2学期	思いやりの気持ちをもって、みんなと仲良くできる子	B親切、思いやり Cよりよい学校生活、 集団生活の充実	地域の敬老会への参加 福祉施設訪問 道徳授業公開 等
3学期	夢や目標に向かって、粘り強く努力できる子	A希望と勇気、努力と強い意志 Dよりよく生きる喜び	職業体験 夢を語る発表会 等

積極的な情報発信による、
「**社会に開かれた教育課程**」の実現

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

令和の日本型学校教育

全ての子供たちの可能性を引き出し、
個別最適な学びと、協働的な学びの実現

我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められる。

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

道徳科の指導について

令和の日本型学校教育

全ての子供たちの可能性を引き出し、
個別最適な学びと協働的な学びの実現

学習指導要領の着実な実施

ICTが学校教育を支える
基盤的なツール

もはや必要不可欠
なものである

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

特別の教科 道徳 の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため**、**道徳的諸価値についての理解を基に**、**自己を見つめ**、**物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え**、**自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して**、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

【小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 H29.7から一部抜粋】

道徳科の特質を踏まえたICTの活用

令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

考え、議論する道徳

考え、議論する道徳

考える

主体的に
自分との関わりで

自分の考え方、感じ方
を明確にする

多様な考え方、
感じ方と出あい
交流する

自分の考え方、感じ方
をより明確にする

令和5年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

特別の教科 道徳 の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため**、**道徳的諸価値についての理解を基に**、**自己を見つめ**、**物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え**、**自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して**、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

【小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 H29.7から一部抜粋】

道徳科の授業におけるICTの効果的な活用

一般的な道徳科の学習指導過程におけるICT活用例

段階	学習の目的	主な学習活動	ICTの活用例
導入	・実態や問題を知る。	・道徳的価値について、問題意識をもつ。	・実態や問題の提示 (画像や映像、グラフ等)
展開	・教材を活用して、道徳的価値を理解し、よりよい生き方を考える。	・自分自身との関わりで考える。 ・多面的・多角的に考える。 ・自己の(人間としての)生き方についての考えを深める。	・教材の提示 (画像や映像等) ・自分の考えをもつ (ICT端末に示す) ・他者の考えを知る (ICT端末に共有する) (表やグラフ等) ・話し合う(直接的な対話) ・自己を見つめる (ICT端末に蓄積する)
終末	・よりよい生き方の実現への思いや願いを深める。	・道徳的価値についての自己実現への意欲を高める。	・生活の様子の提示 (画像や映像等) ・外部の方の言葉の提示 (画像や映像等)

GIGAスクール構想のもとでの小学校特別の教科道徳の指導について(文科省)より引用

小学校・第3学年・道徳科・主題名「正しいことは自信をもって」

内容項目：A 善悪の判断、自律、自由と責任①

一般的な学習指導過程



授業のねらい

正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする心情を育てる。

活動のねらい

自分の考えを示すとともに、友達の考えを知り、比較して話し合いながら、自分の考えをより確かなものにする。

ICT活用のポイント

自分の考えをICT端末の座標軸に書き込み、共有することによって他者の考えを視覚的に知ることができ、これらを基に話し合うことができる。

事例の概要

本授業では、善悪の判断とともにその時の気持ちを合わせて考えられるようにするために座標軸を活用している。自分の気持ちや考えをICT端末で示し、友達の考えを知って話し合うことで、道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であることが理解できる。

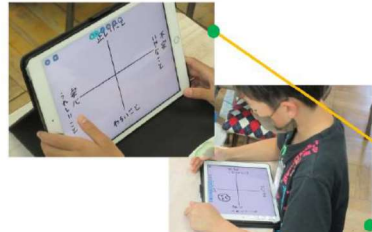
GIGAスクール構想のもとでの小学校特別の教科道徳の指導について(文科省)より作成

小学校・第3学年・道徳科・主題名「正しいことは自信をもって」

内容項目：A 善悪の判断、自律、自由と責任②

～プレゼンテーションソフトと学習支援ソフトのファイル共有機能を活用して、考えを表現・共有～

【デジタルスライドの座標軸に自分の気持ちや考えを位置で示す】



【共有された他者の気持ちや考えを知る】



【学習の目的】

道徳科の学習では、何がよいことと何がいけないことなのかを、様々な内容項目を手掛かりとしながら考え、道徳的価値を理解することなどを通して道徳性を養うことを目標としている。しかし、道徳的価値を知覚的に理解するだけではなく、その時の自分の受け止め方も合わせて考えていき、その感じ方や考え方は一つではなく、多様であることも理解する必要がある。これらの理解のことを「価値理解」「人間理解」「他者理解」と言い、道徳的価値の理解に必要なものである。

【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

・教師が事前に作成したデジタルスライドの座標軸に言葉を入れて児童のICT端末に送り、一人一人の児童は、座標軸上の自分の考えにあてはまる場所に好きなマークを書き加える。その後、一人一人の児童はマークを入れたデジタルスライドを学習支援ソフトのファイル共有機能を使って共有することにより、それぞれの考えを知ることができる。

【ICT活用のメリット】

・黒板に表示された一つの座標軸に児童がネームプレートを貼っていく場合と比べると、時間が短縮され、ネームプレートを先に貼った児童の考えに影響されにくく、一人一人が自分の考えを表現できる。
・共有された友達の考えを視覚的に捉えることができ、自分の考えと同じ友達や違う友達を見つけることが容易にできる。

○ 活用したソフトや機能：プレゼンテーションソフト、学習支援ソフトのファイル共有機能

GIGAスクール構想のもとでの小学校特別の教科道徳の指導について(文科省)より作成

小学校・第5学年・道徳科・主題名「誠実な生き方」

内容項目：A 正直、誠実

一般的な学習指導過程



授業のねらい

常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

活動のねらい

他者と話し合った後、授業を振り返りながら自分の考えをまとめる段階で、他者の考えも参考にしながら自分の考えをより確かなものにする。

ICT活用のポイント

自分の考えをICT端末に打ち込み、共有することによって他者の考えも知ることができる。また、教師も全児童の考えを見渡すことができ、意図的に指名して学級的全児童に紹介することができる。

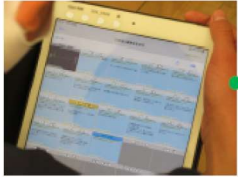
事例の概要

一人一人の児童が、ねらいとする道徳的価値である「誠実」について考えをまとめ、友達のまとめた考えを見ながら自分のよさや課題を見つけることができる。また、教師は、全児童の考えが把握しやすく、意図的に指名に生かすことができる。

GIGAスクール構想のもとでの小学校特別の教科道徳の指導について(文科省)より作成

学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフトを活用して、 考えを共有・記録

【端末に自分の考えを打ち込む】



【意図的に指名をして紹介する】

【学習の目的】

道徳科では、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方を確かに想起したりすることができるようにするなど、特に自己の生き方についての考えを深めることが大切である。そこで、本時に行われた道徳科の授業を一人一人の児童がしっかりと振り返りながら、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにする。

【ICT活用のメリットを生み出すための工夫】

一人一人の児童がしっかりと、本時の授業を振り返りながら、自己の生き方についての考えを深め文字を打ち込んでいく。一人一人の児童がICT端末に打ち込んだ考えについて教師は、共有したり、意図的に共有しなかったりする。なかなか考えがまとまらない児童への対応として、一定時間を見計らって全児童の考えを共有する。教師は、全児童の内容をICT端末で確認しながら、個別に対応する。

【ICT活用のメリット】

- ・共有された友達の考えを知ることができ、自分の考えと比較して、さらに自分の考えを深めることができる。
- ・教師は全児童の考えをその場にいながらICT端末で把握することができ、意図的に指名をして、特定の児童の考えを他の児童に紹介することができる。
- ・このように毎時間蓄積された児童の考えは、継続的に行われた道徳科の授業で一人一人の児童の学習状況を見取って行われる評価の資料として活用することができる。

○ 活用したソフトや機能：学習支援ソフトのファイル共有機能と文書作成ソフト

GIGAスクール構想のもとでの小学校特別の教科道徳の指導について(文科省)より作成

参考資料

道徳科の学習指導過程でのICT活用(例)

児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

・評価に当たっては、特に、学習活動において児童が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、下記のような点を重視することが重要であり、ICTの効果的な活用が子供たちの学習活動を促すことにもなる。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか

- ・道徳科では、子供たちの学習状況について大きくくりなまとまりを踏まえた評価が求められる。
- ・年間や学期という一定の期間を経て評価するためにICTを活用することが、子供たちが自己を深く見つめることや教師の負担軽減にもつながる。

道徳科の評価のための活用例

継続的な授業によって子供の学習状況を見取り、子供がいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人内評価を行う。

- ・毎時間の授業記録を端末に保存していく。
- ・子供が学びを振り返り、成長の様子を実感する。
- ・教師が子供の学びを見取り、評価に生かす。



令和6年度各教科等担当指導主事連絡協議会 道徳科部会資料より

参考資料

StuDX Style

<https://www.mext.go.jp/studxstyle/>

道徳教育アーカイブ

<https://doutoku.mext.go.jp/>

NITSの研修教材

<https://www.nits.go.jp/>